

犬山たび

卷之六
羽黒編

わたしの街のとおき文化遺産

幾千の兵どもが駆け抜けた地、羽黒。
今は静かに竹たちが
さらさらさらと
過ぎ去りし夢、語り継いでる。

犬山の中央部に位置する羽黒。今は静かな住宅地が広がる場所になっていますが、実は犬山の中でも、色々な不思議が詰まっている場所です。戦前の羽黒は、街を通る犬山街道沿いに劇場や遊郭があり賑わいを見せていました。さらに時間を遡ると、小牧・長久手の戦いの際には戦場になり、さらに中世には、鎌倉幕府ゆかりの梶原一族が住居を構えていました。

現在では、かさかさと静かに竹の音が響く地、羽黒。かつては猛者達が、この地に己の夢をのせて、颯爽と駆け抜けていったのです。



犬山たび

も羽黒編

羽黒 ココ特選

羽黒城跡



八

羽黒鑄物集団
の謎



十

成海てがし
神社とわき水



十一

八幡林の
古戦場



十二

羽黒 & 物語

山姥物語



六

たびの案内人

犬山モモ次郎



久スキギス丸



モモ次郎と仲良しの雉。見つけた宝物を畑に埋めて隠しているが、3歩歩くと隠した場所を忘れるのが悩み。

その昔、桃太郎と一緒に鬼退治に出かけた勇敢なわんこ。犬猿の仲の猿とはちょっと疎遠だけど、たまにメールはする。

コレ見て 文化遺産

磨墨塚



十二

興禅寺



十三

五条川の桜



小弓の庄



十四

小弓鶴酒造



天燈塚古墳



十五

堂ヶ洞古窯



たびの お役立ち

モモ次郎の
わんわんマップ



十六

キギス丸の
たび文庫



十八

たびの仲間はいくつ？

十九頁

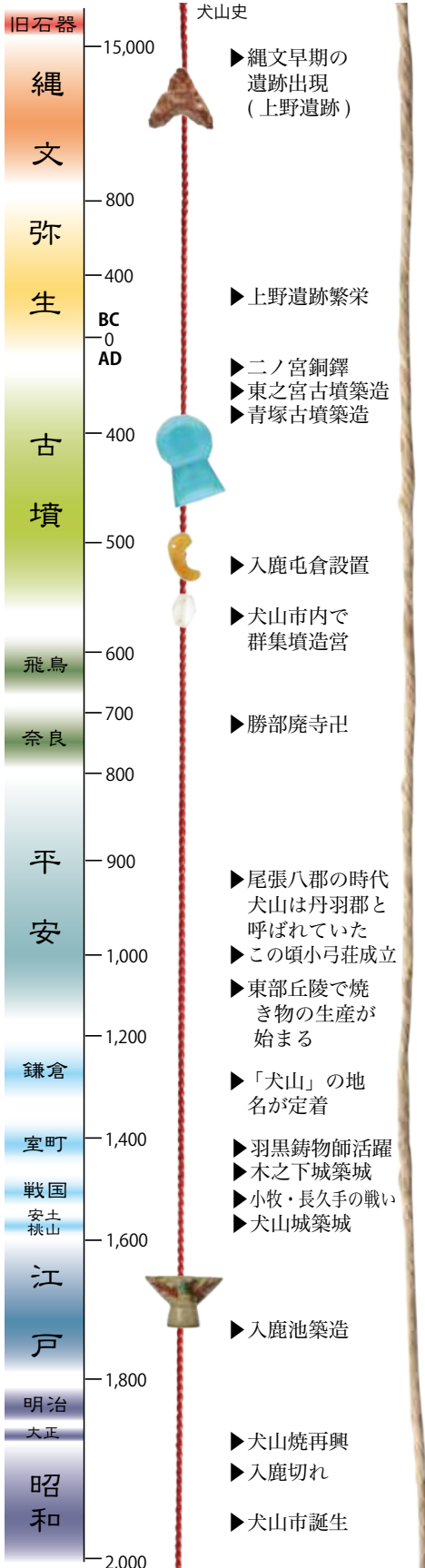
紹介したオニ



三年間にわたって犬山市で行った「悉皆調査」。その調査の中で見つけた魅力いっぱい文化遺産を、犬山七つの地区別に紹介します。「犬山たび」を持って、モモ次郎たちと楽しいたびに出かけましょう！



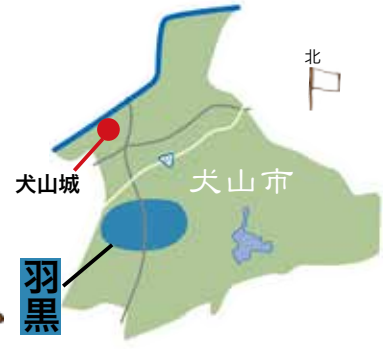
年表



羽黒史

キギス丸の鳥瞰 MAP

羽黒は犬山の中央部に位置する地区テブ。地区内には、五条川と新合瀬川、半ノ木川という3本の川が通り、木曾川の伏流水が湧く場所が多く、地区のあちこちには水にまつわる伝承が多く残っているテブ。また、犬山で一番有名な昔話、「山姥物語」の舞台の場所テブよ。



古墳時代後期

高根洞古墳群が築かれる。
高橋地区にたくさん古墳が築かれる (p.15)。

平安時代

堂ヶ洞古窯で焼き物生産 (p.15)。



山姥物語 (『尾張名所図会』より)

1201 ~ 1204 年頃

羽黒城築かれる (p.8)。

1584 年

小牧・長久手の戦いおこる。「羽黒合戦」おこる (p.9)。

14 世紀半ば頃

羽黒で鋳物栄える (p.10)。

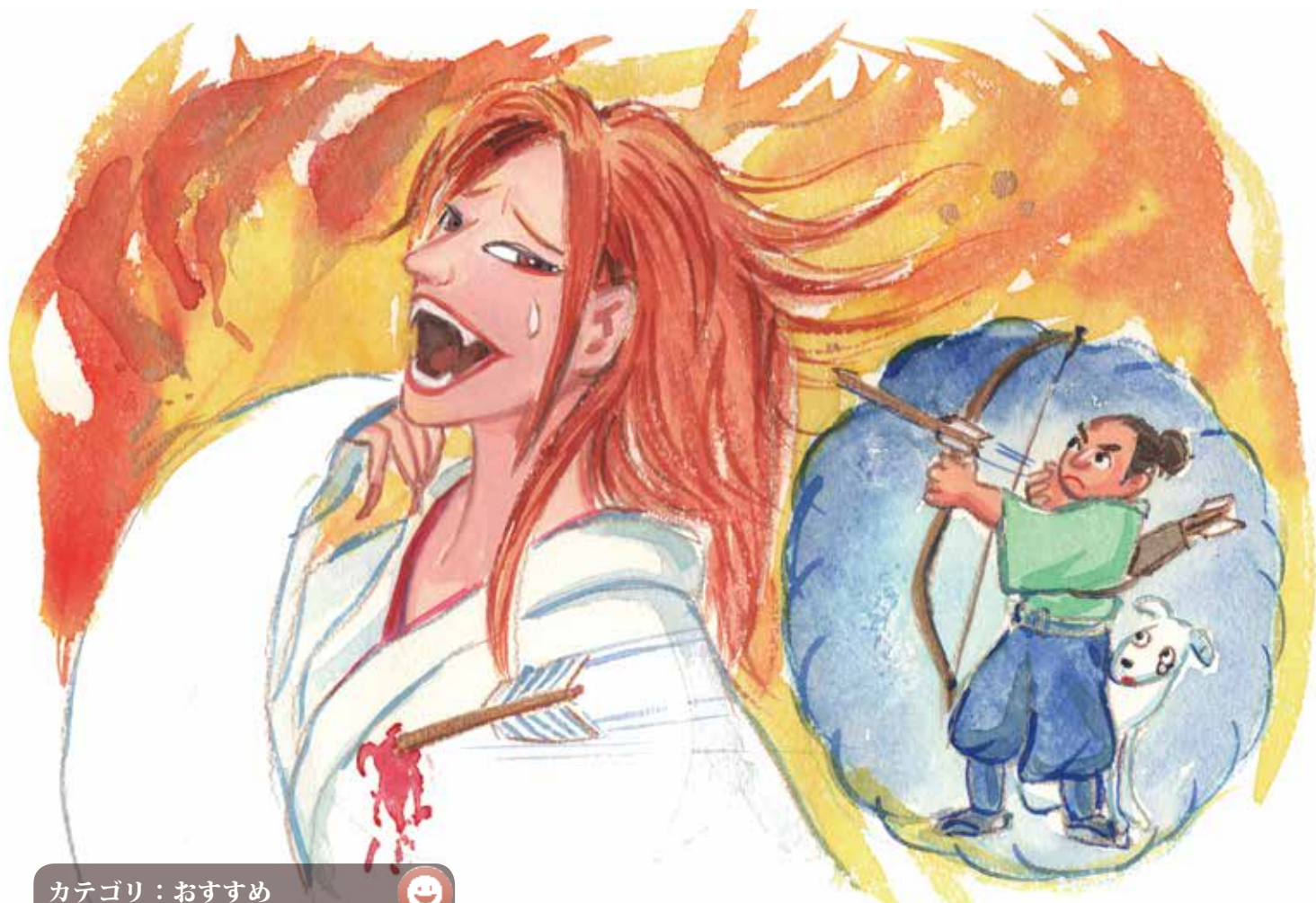
1624 ~ 1644 年頃

犬山城主、成瀬正虎が犬山城下街から、楽田追分までの道を整備。稲置街道と呼ばれる。


明治維新後～昭和初期

稲置街道が犬山街道と呼ばれるようになる。街道沿いの羽黒の町は芝居小屋や遊郭があり、大変栄える。



や ま ん ば も の が た り
 山姥物語


カテゴリ：おすすめ
 住所：－
 成立年代：安永 6(1777) 年
 map：－



 犬山の代表的昔話
 「山姥物語」

「山姥物語」は、犬山に伝わる代表的な昔話です。尾張北部から美濃南部に至る広い範囲に伝承されています。

文久年間（1264～1275）の頃、羽黒村に福富新蔵ふくとみしんざうという狩りの得意な野武士が住んでいました。ある夜新蔵が狩りに出かけると、本宮山の社で身の丈3メートル程の山姥をみつめました。危険を感じた新蔵が山姥に向かって弓を打つと、山は大荒れの嵐になりました。後日、新蔵が山姥の血の跡を追いかけると、本宮山の頂上から鞍が淵を通過して池野の安楽寺を通り、さらに羽黒の成海村を抜け青塚の近くを過ぎ、大口の余野にある新蔵の友人、小池余八郎の家まで続いています。家の中を調べると、余八郎の妻が山姥であることが分かりました。新蔵と余八郎が妻の姿を探すとすでになく、おびただしい血の跡と余八郎にあてた別れを惜しむ手紙だけが残されていました。二人は山姥の血の跡を追いましたが、行方はどうとうわかりませんでした。



昔話、今の地

さて、犬山で「山姥物語」が誕生した理由として考えられるのが、本宮山周辺の自然地形との関わりです。

山姥が始めに逃げた場所、尾張富士南麓付近や本宮山西側一帯は、鉄鉱石が多くとれる場所であり、赤錆色の岩や土が、地面に露出しているのが現在でも見られます。また、この地域は昔から土石流や河川の氾濫など自然災害が発生しやすい地域でした。一旦大雨が降ると赤錆が五条川に流れ込み、血のような赤色に染まった水が、人の住む低地へ氾濫したと思われる。この赤錆の水が流れる方向が、物語中に示される山姥がつけた血の道筋と重なっているため、山姥の逃げた道は、河川の氾濫等の自然現象を暗示するものであると考えられるのです。昔から伝わる物語には、後の世の人への教訓が含まれていることが多いですが、犬山に伝わる「山姥物語」も、古来の人々が自然災害に苦しめられてきた事実を、忘れてはいけない「畏怖の警鐘」として、後世の人々に伝えたかったのではないのでしょうか。



▲赤く染まった水
(撮影：鞍が淵)

はぐろじょうあ と 羽黒城跡



羽黒城で
見つけたカケラたち

羽黒城跡は、名鉄小牧線羽黒駅から北西に行くこと約400メートル、犬山市文化会館の南側に位置する鎌倉幕府の御家人・梶原氏ゆかりの城跡です。築造は鎌倉時代で、建仁年間（1201～1204）年にかけて建てられたものとされます。現在当時の建物は残っておりません。跡地周辺は竹林となっています。



古墳として造られ、武人の館と変わり、現在は竹のささやき響く憩いの場へ…時代と共に変化する羽黒城の姿。



カテゴリ：遺跡・史跡
住所：犬山市羽黒字摺墨
成立年代：建仁年間（1201-1204）
map：p.17





発掘調査の様子



記念碑



発掘で見つかった底に文字も書かれた茶碗



鎌倉幕府と羽黒地区
意外なその関係史

源頼朝に重用された梶原景時は、鎌倉幕府で要職をつとめ権威を誇りますが、頼朝の死後、権力闘争に破れて抹殺されます。その折、景時の孫である豊丸が、家来郎党共々鎌倉から逃げのびてきた場所が、豊丸の乳母・お隅の方の出身地である羽黒当地に居を構えて梶原屋敷とし、羽黒城（館）として存続、以後梶原氏はこの地で生活を送っていました。その後、17代目である当主景義は、信長に仕え羽黒3千石の領主となりましたが、天正10（1582）年におこった本能寺の変で信長とともに討ち死にし、これによって梶原家は途絶えてしまいます。その際、羽黒城も廃城となりました。



羽黒城の下に眠る
謎多き「羽黒城古墳」

し、その後廃城となりました。さて、羽黒城跡は、小高い丘の上に建てられているのですが、この丘はもともとこの場所にあった全長80メートルほどの前方後円墳を利用したようです。現在、「羽黒城址記念碑」という碑が建っている場所がまさに古墳の墳丘部です。前方部の高さは約6メートルで比較的保存が良く、前方部の南斜面には葺石も点在しています。前方部の周辺北側に一段低くなる場所があるのですが、ここは羽黒城の堀の跡か、古墳の環濠であったのでは、と考えられています。大正末期には、この場所に水がたまり、水濠となっている写真も残っています。

わんわん「リラム」
よみがえれ羽黒城！
コミュニティの活動

羽黒地区コミュニティ推進協議会は、羽黒地区の町内会や商工発展会・婦人会・各種団体などで構成された活動団体です。平成11（1999）年に「小弓の庄」を活動拠点として発足しました。現在、当団体では地域の活性化活動の一環として、羽黒城跡がある竹藪を整備して竹林公園化する活動を行っています。羽黒城跡の周辺には、犬山市民文化会館や南部公民館、羽黒中央公園などがあり、現在でも人が集まる地区の中心地となっているため、当地域を古代から現代にわたる羽黒の中心地として盛り上げて行こうという活動です。当地域も高齢化が進み、未来に向けて様々な問題が生じていますが、そのような時こそ地元に着目した活動が必要と感じて活動しています。



平成26年に中央公園で行った夏祭りの様子



カテゴリ：遺跡・史跡

住所：-

成立年代：中世

map：-



羽黒鑄物集團の謎



羽黒の黄金期を造った謎多き「鑄物集團」

羽黒地区には、14世紀半ばから16世紀代ころまで栄えた鑄物作りの技術集團がいたとされます。彼らの工房があった場所は、羽黒駅から西へ1キロメートル位の場所にある興禪寺の西側あたりと推定されており、今でもこの場所には南金屋・北金屋という地名が残っています。この周辺に近年、金屋団地を建設した際、鑄型片やフイゴ片など鑄物作りに関わりのある遺物が出土しています。羽黒で製作されたと思われる梵鐘は今でも残っており、一宮市妙興寺の鐘（1376年制作）等が見られます。それらの製品の材料となった鉄や銅の採掘場所の候補としては、犬山市安楽寺の佐ヶ瀬地区や尾張富士南山麓付近が考えられます。尾張富士山麓には、昔、採石場があり、大正期頃まで採掘を行っていたとされます。昭和30年代にはまだ採掘坑が残っていたようですが、現在、採掘坑は埋め立てられてしまい、見る事は



尾張富士山麓、採掘坑付近の風景

出来ません。しかし、今でも近くで鉄鉱石のカケラが散乱しており、拾う事が出来ます。また、銅の原料となる黄銅鉱（孔雀石）については、犬山市池野交番より小牧方面（野口）へ向かう鳥坂峠の右手、中部電力変電所の在る「倉曾洞」山頂尾根付近に、銅鉱石が露天掘りされた跡が今でも残っています。ここでは、大正期頃迄採掘を行っていたそうです。このような近代の採掘坑で、羽黒の鑄物集團たちも採掘を行っていたのかは定かではありません。しかし、羽黒鑄物集團の繁栄は、豊かな犬山の天然資源に支えられてこそであったといえるでしょう。

カテゴリ：建造物
住所：犬山市羽黒成海郷 109
成立年代：清寧天皇2(481)年
map：p.17

古き風景を伝える 弁天池のわき水

成海てがし(杵)神社は清寧天皇2(481)年に創建されたと伝わる格式ある式内社です。神社内の一角にある弁天堂は江戸時代後期に建てられたもので、その眼前にある弁

天池には、昔は満々と水があふれていたそうです。しかし、昭和50年代の農地整備等により地下水脈が変わり、水は以前のように湧き出なくなっていましたそうです。さて、成海てがし神社の周りを見てみると、周辺の場所にも昔は「湧

水の地」が沢山あったそうです。まず、神社から東約320メートルの場所にある犬山ローレライ(小弓鶴酒造(株))。昭和30年代ころまで、建物の裏にある敷内にある池から清水がこんこんと湧き、幅1.5メートル位の川となつててがし神社の弁

成海てがし 神社とわき水

羽黒ココ特選

天池に流入していたそうです。このローレライにある池は当時子供の遊びの場所となっていたそうです。次に弁天池の南側200メートル位の低湿地にあったとされる池、「赤池」。幅5メートル、長さ10メートル位の楕円形であったとされます。また、この池から流れ出る小川があり、名前も「赤川」と呼ばれていたそうです。この「赤池」や「赤川」の名前は、池底の湧水と一緒に出る鉄分が混ざった水が溜り、池や川の水が赤く染まっていたことに由来すると考えられます。昔、てがし神社付近の水田でも、田植の前に水田の土を起こすと畔道の脇に鉄錆色が付着していましたが、こちらも圃場整備後は発生しなくなりましたそうです。

成海てがし神社周辺は犬山扇状地の段丘端部に位置しており、伏流水の湧きやすい場所であると考えられます。このように昔から水がこんこんとわく場所であったからこそ、古い時代から人が住む場所として選ばれていたのではないのでしょうか。



はちまんばやし

八幡林の古戦場



カテゴリ：遺跡・史跡
住所：犬山市羽黒八幡東
成立年代：天正12(1584)年
map：p.17

今は昔、合戦の地
羽黒にありけり

八幡林の古戦場は名鉄小牧線「羽黒駅」南方の林一帯に位置しています。天正12(1584)年、豊臣秀吉と徳川家康・織田信雄との間で繰り広げられた小牧・長久手の戦いの前哨戦、「羽黒合戦」が行われた場所です。

小牧・長久手の戦いが開始された際、羽柴秀吉方に組した武将、池田恒興は、犬山城を攻略しました。その恒興の娘婿である森長可は、3千の兵を率いてこの八幡林の地に布陣しました。その後、長可の軍は家康方の武将とこの地で激突しますが、大敗します。長可の家臣の中で、豪傑として知られていた野呂助左衛門親子が討死にしたのもこの時とされ、近くに「野呂塚」と呼ばれる親子の墓と、大正7(1918)年に子孫が建てた碑が残っています。八幡林の古戦場は昭和の中頃までは松林となっていました。今はその場所に成海神社(通称八幡社)の拝殿が建立されています。

するすみつか 磨墨塚



カテゴリ：遺跡・史跡
住所：犬山市羽黒磨墨
成立年代：鎌倉時代
map：p.17

頼朝と景時の絆の印
ひっそり眠る愛馬の塚


磨墨塚は、梶原景時の愛馬「磨墨」を祀った塚です。羽黒城跡の北側にいる公園内にあります。

磨墨は、元々は源頼朝の愛馬だったものが梶原景時に与えられたとされています。景時の死後、景時の孫の豊丸たちと共に羽黒へ落ち延びてきました。その後、隅の方がなくなった際に、時を同じくしてこの磨墨が死んだため、塚が築かれたと伝わります。現在、磨墨塚には竹が全体に生え、隅の方と磨墨の慰霊碑が建てられています。周囲は公園となり、磨墨塚史跡公園として地域の方々に親しまれています。

コレ見て
文化遺産


興禅寺は臨済宗妙心寺派で、梶原一族に由来する歴史ある寺院です。寺院は鎌倉時代に梶原景時かじわらかげときが大日と呼ばれる場所に真言宗の寺院を建立したのが始まりと伝えられます。


寺院は天正12（1584）年の小牧長久手の戦いによって焼失しますが、慶長7（1602）年、犬山城主小笠原吉次おがさわらよじつぐの寄進により再建され、現在に至っています。明治31（1898）年築造の本堂と、昭和14（1939）年築造の山門は、国の登録有形文化財です。

 梶原氏の繁栄を伝える古刹、興禅寺




こうぜんじ
興禅寺

カテゴリ：建造物 
住所：犬山市羽黒城屋敷16
成立年代：承安4(1174)年
map：p.17

 地域の人が築いた花道春の彩り、五条川の桜



ごじょうがわ
五条川の桜
さくら

カテゴリ：自然・景観 
住所：—
成立年代：—
map：p.16、p.17

昭和に入ったころ、地域の方々によってまちおこしの目的で、五条川の土手に桜の植栽が開始され、その後も尾北自然歩道整備の一環として植栽が重ねられているそうです。今まで、ソメイヨシノ・シダレザクラ・ヤエザクラといった様々な種類の桜が植栽されました。

名鉄小牧線羽黒駅を下車するとすぐ南に五条川が流れており、桜の開花時には羽黒橋や小弓橋周辺などの各所で、見事な景観をみせてくれます。この五条川の桜並木は、犬山から大口町、江南市、岩倉市まで続いており、春には川沿いに長く続く美しい桜並木を見ることができます。

小弓の庄



カテゴリ：建造物
住所：犬山市羽黒古市場 53-1
成立年代：明治 40 年代
map：p.17

趣ある明治の建物
今は地域の憩いの場に

小弓の庄は国の登録有形文化財で、明治40年頃に建てられた建造物です。明治期の建物に特徴的な「擬洋風」といわれる和風建築に洋風を取り入れた建築様式となっています。建築当初は、現在地より西方の稲置街道に面して建てられていました。

その際、建物は加茂郡銀行羽黒支店として使われていましたが、その後、次々と持ち主が次々と変わりました。平成11（1999）年に現在地に移築され、その際、建物は「小弓の庄」と名付けられ、羽黒地区の地域の憩いの場となっています。

小弓鶴酒造



カテゴリ：遺跡・史跡
住所：犬山市羽黒成海郷 70
成立年代：嘉永元（1848）年
map：p.17

今も生きる伝統の味
小弓鶴の歴史

木曾川の伏流水の恵みを受け、古くから酒造業が盛んな地域である羽黒には昭和15（1940）年頃まで7軒の造り酒屋があったといわれますが、現在は小弓鶴酒造と東洋自慢酒造の2軒が残るのみです。そのうち小弓鶴酒造は、嘉永元（1848）

年、尾張藩の勘定奉行所から御墨付を受けて創業した酒屋です。酒造の持つ「吉野家住宅」は、登録有形文化財の建造物です。現在は木曾川の天然醸造水を使ったビールも醸造しており、「犬山ローレライ麦酒館」として地域の人に愛されています。

天燈塚古墳



カテゴリ：遺跡・史跡
住所：犬山市羽黒高橋郷
成立年代：古墳時代
map：p.17

幻の古墳群 石室が語る面影

羽黒西部の高橋地区には、かつて5基の古墳があったと言われています。その中でも、第2号墳にあたる天燈塚古墳は、屋根形の蓋をもつ石棺（家形石棺）が出土したことでも有名です。天燈塚古墳は、直径10メートルほどの円墳であったといわれていますが、現在は消失し詳細は不明です。

出土したとされる石棺の両側面には彫刻が施され、蓋の上面には蛇行状の溝があったとされています。現在、石棺の上部は消失してしまいましたが、羽黒地域において貴重な資料であることから、現在は羽黒小学校の校庭に保存展示されています。なお、この少し前には、高根洞にも沢山の古墳が造られています。

堂ヶ洞古窯



カテゴリ：遺跡・史跡
住所：犬山市羽黒堂ヶ洞
成立年代：古代
map：p.16

硯も出土！ 平安時代の窯跡

堂ヶ洞古窯は、羽黒地区の東端に位置する堂ヶ洞付近の丘陵地にあった平安時代の窯跡です。現在窯は削平されて住宅地となっています。住宅地になる以前は、10基を越す窯跡が存在していたといわれますが、このうち、発掘調査したのは3基のみで、その他は未調査のまま消滅してしまいました。窯は、丘陵斜面をトンネル状に掘って作られた地下式の窯（窟窯）で、灰釉陶器などの焼き物を生産していました。作られたものは碗や皿といった種類が主ですが、風字硯といわれる硯も見つかっています。





もも次郎
わんわん
マップ

p.15 堂ヶ洞古窯

p.13 五条川の桜

羽黒

マップを持って、
文化遺産に出会う旅に出発!



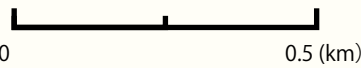
遺跡
史跡



建造物

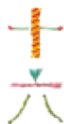


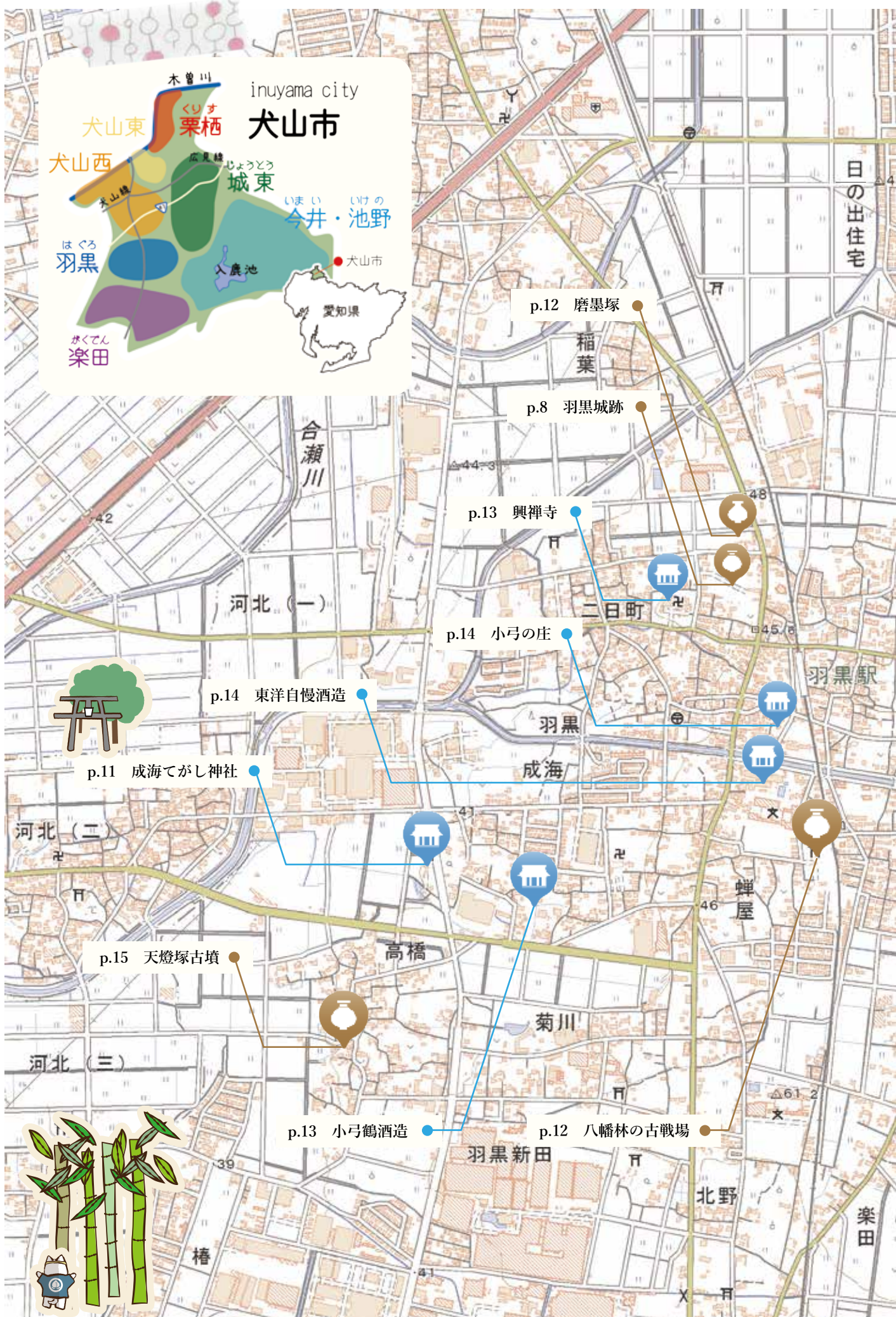
自然
景観



(縮尺：1/12500)

(地理院地図電子国土 Web を加工して作成)







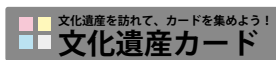
引用・参考文献一覧

全巻共通

- 愛知県犬山市役所秘書企画課、1983、『犬山のむかしばなし』、犬山市役所。
- 愛知県犬山市役所秘書企画課、1987、『犬山のむかしばなし 第2集』、犬山市役所。
- 愛知県犬山市役所、2004、『犬山ものがたり』、犬山市役所。
- 愛知県史編さん委員会、2010、『愛知県史』別編 自然、愛知県。
- 犬山市エコアップリーダー、2004、『犬山の巨樹・古木 50選』、巨樹巨木調査グループ。
- 犬山市教育委員会、1993、『犬山市の文化財』、犬山市教育委員会。
- 犬山市教育委員会・犬山市史編さん委員会、1983、『犬山市史』史料編三 考古 古代・中世、犬山市。
- 犬山市教育委員会・犬山市史編さん委員会、1985、『犬山市史』別巻文化財・民俗、犬山市。
- 犬山市教育委員会・犬山市史編さん委員会、1997、『犬山市史 通史編上』、犬山市。
- 犬山市教委委員会、2002、『全市博物館構想 市民が創る生涯学習のまち』、犬山市教育委員会。
- 横山住雄、1990、『犬山の歴史散歩』、濃尾歴史文化研究所。

本巻

- 木曾川学研究協議会、2010、『木曾川とともに歩んだ各務原 犬山 岐南 笠松』、木曾川学研究協議会。
- 佐藤重造・横山住雄、1986、『各務原の歴史散歩』、石亀神社。
- 津守道夫編、2014、『犬山 羽黒今昔物語』、羽黒地区コミュニティ推進協議会。
- 横山住雄、2007、『興善寺史』、妙国山興善寺。



文中に、herica マークがついているものは、「文化遺産カード」がある文化遺産です。文化遺産を訪れてカードをたくさん集めましょう！

文化遺産カードの楽しみかた

- 文化遺産をたずねて写真を撮ろう。
それぞれの地域に、様々な文化遺産が残っています。
【カード一冊】に載っている文化遺産をたずねてきましょう。
- 写真をもって、配布場所でカードをもらおう。
撮影した写真（デジタルカメラ、ケータイの機能でもOK）を持って、
【配布場所一覧】の配布カード配布場所へ行き、「文化遺産カードを
ください」と伝えて下さい。
- 文化遺産カードを通して、地域の文化遺産を
肌で感じる体験をしてみませんか。
ホームページには文化遺産の詳しい説明や写真、アクセスの方法
などが載っています。ぜひチェックしてみてください。
- たくさん集めて、特製バインダーにカードを
コレクションしよう。
たずねた文化遺産を、いつでも手元でチェックできます。
特製バインダーについては【バインダー】をご覧ください。

文化遺産カードの詳細な情報は HP(<http://herica.net>) まで



文化遺産ナビとは、iPhone/Android/Black Berry/Symbian などスマートフォンで利用できるアプリ「layer」を使った犬山の文化遺産ナビシステムです。どこにどんな文化遺産があるのか、またどんな方法で訪れればいいのか、簡単に調べる事ができます。アプリ「layer」をダウンロードして、「犬山文化遺産ナビ」を検索！

【Layer/レイヤー】

オランダ LAYAR BV 社が開発・提供する AR (オーギュメントドリアリティ 拡張現実) アプリケーションです。スマートフォンに搭載されている GPS、電子コンパス、カメラの機能を利用して、自分の周りにある位置情報を表示します

※本アプリは無料ですが、アプリのダウンロードやコンテンツ閲覧等には別途通信料がかかります。ご利用前に料金プランをご確認ください。

Layer 詳細情報：<http://www.layar.jp/>

犬山たび 羽黒編

🍵 たびの仲間紹介



犬山たび 卷之六 羽黒編

発行年

平成 27 年 3 月 26 日

発行

犬山市教育委員会
〒 484-8501
愛知県犬山市大字犬山字東畑 36
犬山市役所

企画・編集

特定非営利活動法人
古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク
〒 484-0084
愛知県犬山市大字犬山字南古券 288-7

編集スタッフ

【監修】 赤塚次郎
【編集・レイアウト】 奥野絵美
【Map 作成】 大塚友恵
【写真】 中野耕司
【編集協力】 岩田紗絵・長谷川文雄・西松賢一郎・
麻野純子・平野昌子

悉皆調査調査員

赤塚遼太・麻野慎策・荒井たつよ・在野一生・市
澤泰峰・井上正昭・上田誠人・内田恭司・岡本
利雄・加藤有理香・兼松泰弘・木村直光・久保禎子・
瀨織 茂・近藤健一・齋藤 晶・櫻井 敬・高橋幸子・
田口 韶・中島和哉・中野金弘・野田香代・野々村
光雄・服部哲也・葉栗克彦・坂野俊哉・名和奈美・
長谷川富江・東野由貴子・広瀬まり・舟橋正恭・
町田義哉・宮下香代子・山崎克江・山本綾乃・吉田
さよ子・渡邊 智

協力

ナカシャクリエイテブ株式会社
財団法人 岩田洗心館

